

# CASBEE<sup>®</sup>さいたま2016年版 | 評価結果 |

■使用評価マニュアル: CASBEEさいたま2016年版

■使用評価ソフト: CASBEEさいたま2016Ver.1.0

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	大宮駅東口大門町2丁目中地区第1	階数	地下3F/地上18F
建設地	埼玉県さいたま市大宮区大門町2丁目	構造	S造
用途地域	商業地域、防火地域	平均居住人員	XX 人
地域区分	5地域	年間使用時間	XXX 時間/年(想定値)
建物用途	事務所、集会所、工場、等	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2021年10月 予定	評価の実施日	2018年1月10日
敷地面積	8,558 m <sup>2</sup>	作成者	山下設計
建築面積	6,814 m <sup>2</sup>	確認日	2018年1月23日
延床面積	82,085 m <sup>2</sup>	確認者	山下設計



### 2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

**BEE = 1.4** ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B-: ★★★★★ C: ★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです

### 2-3 大項目の評価 (レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価 (バーチャート)

**Q のスコア = 3.4**

#### Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.2

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.7

#### Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア = 3.2

**LR のスコア = 3.2**

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 2.9

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.7

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.2

3 設計上の配慮事項		その他
<b>総合</b> 免震構造による防災性の向上や、建物内へ多くの外気を取り入れる広場の計画など、「建築物の環境品質」に配慮し、同時に、Low-Eガラス等の採用による設備投入エネルギーの削減や、高炉セメントや再生クラッシュランの採用による資材の再資源化への配慮等、「建築物の環境負荷」低減にも努めた計画としている。		建物内に広場や歩行者空間、緑の空間を多く確保し市民が親しみを持てる施設としている。また、中山道と水川の社へと抜ける路地状の通路で結ぶことで、人の流れを建物の中へと引き込み、地域全体の賑わいが生まれるよう計画し
<b>Q1 室内環境</b> 不特定多数が利用する低階層は、外気の取入れを促す広場や吹抜け等、自然換気に配慮し、また高階層はLow-Eガラスにより外皮性能向上に努める等、各室の使用状況に応じた室内環境の仕様が確保できるよう計画している。	<b>Q2 サービス性能</b> OAフロアの採用や、複数の通信回線を想定した計画等、情報機器に対し柔軟に対応できるよう配慮した。また、建築物移動円滑化基準や福祉のまちづくり条例の基準を満たし、不特定多数の利用者が不自由なく利用できる計画とし	<b>Q3 室外環境 (敷地内)</b> 建物のボリュームを用途ごとに分割することで建物全体の圧迫感を軽減させるとともに、各屋上には植栽を計画する等、景観や周辺環境に配慮した計画としている。
<b>LR1 エネルギー</b> Low-Eガラスの採用や断熱材の適切な計画等、熱負荷抑制の取り組みによって設備投入エネルギーの削減に配慮した計画としている。	<b>LR2 資源・マテリアル</b> 場所打コンクリート杭に高炉セメントを、砂利地業(地下躯体下部)に再生クラッシュランを採用する等、建設資材廃棄物の発生抑制や再利用及び再資源化、リサイクル建材の利用に配慮した計画としている。	<b>LR3 敷地外環境</b> 適切な量の自転車置場や駐車場を計画し、利用者の利便性へ配慮するとともに、周辺道路に渋滞や路上駐車などを発生させないよう配慮している。また廃棄物に対しても、分別回収が可能なストックスペースを想定し、十分な広さのゴミ庫を計画している。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される